

轍わだち

2011, 5. 2 NO16

—被災地応援イベント—4—30を終えて—

御礼と報告と感想

実行委員長 西紋あかり

東日本大震災被災地応援—4. 30—はいかがでしたか。感動した！という人もいればそうでない人もいるでしょう。被災地に思いを向ける1日にはなったと思います。3月11日から49日目、実行委員会が発足して20日。短い期間でイベントを準備できたことに正直驚いています。開催については多くの方々にご協力を頂きました。力強い演舞を披露された大津市少林寺拳法アトラクションチームのみなさん。貴重なお話しを下さった湖北地域消防本部・清水宏行さん、素晴らしい歌声を披露していただいたソプラノ歌手上野洋子さん、心にしみ入る音色を聴かせていただいた二胡奏者川野真広さん、清々しい歌声の京都朝鮮歌舞団のみなさん、朝鮮中高級学校コーラス部のみなさん、保護者コーラス部のみなさん。クラブ員のみなさん。そして、支援物資・メッセージカードを寄せて下さったみなさん、募金に協力いただいたみなさん。当日参加下さった被災者支援者をはじめとするみなさん。本当に有り難うございました。

今回、この取り組みを通じて学んだことがあります。それは、今自分しかできないことを生かして活動するという事です。現地に行って直接支援することは今の私たちにはできません。募金や支援物資の提供は私たちでもできることです。本校で実施した4. 30企画は私たちしかできないことです。イベントに込めた被災者への応援の気持ちは、必ず被災者の心に届くと思います。そして私たちのような学生ができる支援運動の先がけになったと思います。このような形の支援運動が本校でできたことに誇りを持っていいと思います。

イベントは終わりました。しかし、支援活動はまだこれからです。1年2年で終わることではありません。あまりに長い時間がかかるためにこの大惨事を途中で忘れてしまう人もいるかもしれません。だから、忘れないためにも自分が感じたことを、身の回りの人に話してほしいと思います。そしていつか、震災を知らない世代の子どもたちに語りついでいこうではありませんか。それは、私たちにできることです。

被災された方々が心から、笑える日が、1日でも早く来ることを祈っています。

募金総額 263,700円 <4. 30現在>

支援物資 文房具16箱 服・靴8箱 衛生品15箱 おもちゃ8箱 飴1箱

- 支援物資は5月6日に、株式会社かシックス様の全面協力により被災地へ搬送していただくことになりました。有り難うございます。積み込み、見送りはみなさんも参加して下さい！
- オリジナルタオル完売！購入希望者がいるので再注文したいと思います。
購入希望者は5月7日までに事務部前の申し込み用紙に学年・クラス・名前を記入して下さい。
- 募金は、再注文タオル収益金の関係上、最終報告はまたいたします。
- 4.30企画収録D V D購入希望者は最寄りの実行委員に申し込んで下さい。500円です。

副実行委員長

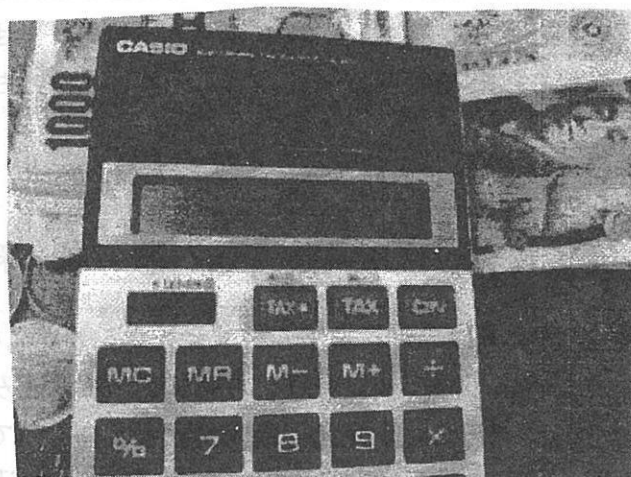
4月11日実行委員会を発足してから、私たちは様々なことに取り組み、自分たちの考えているイベントを現実のものとするために、日々議論と努力を重ねて来ました。発足当初は「本当に最後までやり遂げることができるのか」というきもちが胸を埋めつくし、不安と焦りばかりが大きくなっていく毎日でした。自分が弱すぎる存在だということを突きつけられた気がして、途中で一度、‘いっそのこと投げだしてしまえたらどんなに気持ちが楽になるだろう’と思ってしまったこともありました。そんな私を支えてくれたのは友だち、後輩、先生でした。毎日少人数ながらも委員の数が増えていくことが私にとってどんなに心の支えになったか量りしれません。「非力すぎる自分だけど、何かをしたい」という気持ちはみんな同じなんだと再確認しました。そのおかげで、私は挫けることなくみんなの気持ちを責任をもって被災地に届けられるように頑張ろうと強く思い行動に移すことができました。

そして迎えた4月30日ギャラリーから会場をみて‘とうとうここまでやり遂げることができたんだ’という気持ちが込み上げ、自然に涙がでました。日本を想って歌い、涙を流すキベラの子ども達を見つめる会場すべての人の熱い視線に、「被災地の事を救い出したい」という気持ちを強く感じました。その1人ひとりの気持ちを、このイベントで「形」にすることができたんだと思うと、また涙がこぼれ、私たち委員会がやってきたことは、決して無駄じゃなかったんだと、とても温かい気持ちになれました。イベントに携わったすべてのみなさん本当に有り難うございました。

私たちは復興に向けての新しい一步を踏み出すことができました。これから私たちはイベントを通じてつながった人々の想いを被災地に届けて行きたいと思います。イベントが終わってしまっても私たちの活動は終わりません。まだ、終われません。イベントから感じ取ったみんなの気持ちを、自分の気持ちを過去のものにしていってしまうはいけないと思うのです。

今も、不安や恐怖、絶望の中にいる被災者の方がたが、1日でも早く元の生活に戻ることができるようにいつまでも委員会の一員として、みんなで行動していきます。

イベント終了後夕方までかかり、
支援物資を箱詰めした実行委員会



募金を数え終えた！